



新聞で
読解力アップ!

ワークシート

読解力は学力の基本です。記事を読んで、問題にチャレンジしよう。



つながる
アジア

新鮮な葉物野菜 香港に定期輸出

七飯の会社 独自技術で栽培

【大沼公園】水耕栽培で野菜を生産、販売しているアプレ（渡島管内七飯町東大沼）は今春、香港向けにコマツナやミズナなど葉物野菜の輸出を始めた。独自の栽培技術で鮮度を保てる期間を延ばし、無農薬も売りに、安全性に関心の高い富裕層の需要を見込む。道農政部は「道内から葉物野菜を一定量、定期的にアジア諸国に送る例は聞いたことがない」としている。

同社は七飯町に植物工場2棟（計約3300平方メートル）を有し、約30種の野菜を連年栽培。札幌や首都圏の百貨店、ホテルなどに卸している。温度や湿度、光量などを調整し、野菜を最適な栄養状態にする独自の栽培

技術を持つ。通常数日でしおれる野菜も鮮度が約1週間保たれるという。

道内から輸出される野菜はナガイモやタマネギなど日持ちする作物が主流。葉物野菜の輸出は鮮度維持や割高な空輸費が課題で、ホクレンでも「ハクサイやホウレンソウなどを不定期に輸出する程度」（広報担当者）だ。これに対し、アプレは、香港の富裕層の間で日本産の無農薬野菜への関心が高く、価格が高くて需要があると判断した。

野菜は週に1回、5キロ程度を発泡スチロール製の箱に詰めてトラックで新千歳空港に運び、香港行きは直行便で送る。収穫から3日ほどで店頭に並ぶという。香港中心部の百貨店、香港で4月、野菜約20種を販売したところ、価格は国内の2倍前後だったが約20%が完売した。高橋広介社長は「反応は良かった。香港で事業が順調にいくば、将来は上海へも進出したい」と話している。

香港へ野菜の輸出を始めたアプレの植物工場―七飯町

北海道新聞朝刊 2017年6月5日（月）

(1) ■■■の「葉物野菜」にあたるものを、記事中からすべて書き抜きなさい。

(2) ■■■とありますが、葉物野菜の輸出にはどのような課題がありますか。2つ書きなさい。

・ _____ こと。

・ _____ こと。

(3) この会社で、香港向けに葉物野菜の輸出を始めたのは、どのような理由からですか。(2)で示した課題に対応するように、それぞれ書きなさい。

・ _____

・ _____